

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
専門学校 日産京都自動車大学校		昭和63年3月14日		川嶋則生		〒613-0033 京都府久世郡久御山町林八幡講27番地6 (電話) 0774-46-1123																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人日産学園		昭和58年2月15日		神田昌明		〒329-0604 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120番地 (電話) 0285-56-3585																																							
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																					
工業		工業専門課程		自動車整備科		平成20年文部科学省告示第12号		—																																					
学科の目的		自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																																											
認定年月日		平成27年2月17日																																											
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習		実習		実験		実技																																	
2年		昼	1,937時間	689時間		—		1,248時間		—		—																																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																																	
80人		86人		23人		0人		16人		16人																																			
学期制度		■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準 : 優(80点以上)、良(60点以上)、可(60点未満) 評価の方法 : 筆記試験、実技試験(実習)を実施																																					
長期休み		■学年始: 4月1日～4月10日 ■春 季: 4月28日～5月5日 ■夏 季: 7月21日～8月31日 ■秋 季: 10月28日～11月5日 ■冬 季: 12月20日～1月10日 ■学年末: 3月20日～3月31日				卒業・進級条件		学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ進級・卒業を認める。																																					
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任による本人面談・三者面談、クラス担任による学修相談、教科担当による補習授業、学年統括による生活指導、専門カウンセラーによるカウンセリング、学生動向の学年情報共有など				課外活動		■課外活動の種類 スーパーGT300レース、スーパー耐久レース 野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、バドミントン部、ロッククライミング部、自動車整備部、自動車競技部など ■サークル活動: 有																																					
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 日産企業をはじめとした自動車開発・研究・製造メーカー 日産販売会社をはじめとした自動車整備業界、など ■就職指導内容 ・オリジナルテキストを用いたキャリア形成教育 ・外部講師によるキャリア育成教育 ・就職先採用担当者による就職ガイダンス など ■卒業者数 : 30 人 ■就職希望者数 : 30 人 ■就職者数 : 30 人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>2級ガソリン自動車整備士</td><td>②</td><td>46人</td><td>46人</td></tr><tr><td>2級ジーゼル自動車整備士</td><td>③</td><td>46人</td><td>46人</td></tr><tr><td>日産テクニカルスタッフ3級</td><td>③</td><td>46人</td><td>46人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等						資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	46人	46人	2級ジーゼル自動車整備士	③	46人	46人	日産テクニカルスタッフ3級	③	46人	46人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																										
2級ガソリン自動車整備士	②	46人	46人																																										
2級ジーゼル自動車整備士	③	46人	46人																																										
日産テクニカルスタッフ3級	③	46人	46人																																										
中途退学の現状		■中途退学者 10 名 令和5年4月1日 時点において、在学者 63名 令和6年3月31日 時点において、在学者 53名 ■中途退学の主な理由 学力不振、進路変更、経済理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による定期的な個人面談、専門カウンセラーによるカウンセリングなど				■中退率 15.9 %																																							
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ① 選抜奨学金 特待生奨学金 : 1年次授業料 250,000円免除 遠隔地奨学金 : 1年次授業料 250,000円免除 企業推薦奨学金 : 1年次授業料 250,000円免除 ② 特別奨学金 留学生特別奨学金 : 1年次授業料 250,000円免除 ③ 企業奨学金 日産販売会社奨学金 : 各販売会社が独自の奨学金を支給 リアライズ奨学金 : 2年間学費 1,000,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																											
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 JAMCA(全国自動車大学校・専門学校協会)による、文科省委託事業(第三者評価の実証研究)として受審。 2016年11月25日に受審。結果については、文科省委託事業報告として公開。																																											
当該学科のホームページURL		https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/course/carbody.html																																											

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、養成内容を把握し、具体的な授業科目や教育内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。
また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的に設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2024年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
乗地博之	京都府自動車整備振興会 教育課 課長	令和5年4月1日～ 令和8年3月31日(3年)	①
平松由揮	滋賀日産自動車株式会社 副店長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
土井広行	兵庫日産自動車株式会社 採用・人財育成部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
岩本宏成	京都府自動車車体整備協同組合 副理事長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
桑島久志	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールス事業本部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
中村達也	京都サービス株式会社 工場長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
ゴー・タイ・ソン	兵庫日産自動車株式会社 採用・人財育成部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
川嶋則生	日産京都自動車大学校 学校長		
鳥井英雄	日産京都自動車大学校 教頭		
大村哲嗣	日産京都自動車大学校 一級課・車体課 課長		
清水昭一	日産京都自動車大学校 自動車課 課長		
遠藤博之	日産京都自動車大学校 一級課 課長代理		
佐藤友彦	日産京都自動車大学校 自動車課(1年・2年) 課長代理		
井上恵太	日産京都自動車大学校 自動車課(国際科) 課長代理		
民野武史	日産京都自動車大学校 車体科統括		
当麻範嗣	日産京都自動車大学校 教務課 課長代理		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期		
年2回以上 開催時期 5月、3月		
(開催日時)		
第1回	令和5年7月20日	13:00-16:00
第2回	令和6年3月7日	13:00-16:00
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ・学生PC端末に動画を送信するなど、授業のICT化を一層進めて学科授業における構造や作動、また、実習授業における作業手順や注意点を理解しやすくする工夫や改善を進めた ・2級課程の授業カリキュラムに、自動車の取り扱い説明書を読み込む時間を十分に確保した ・1級課程において、特定整備記録簿の記載方法をしっかり教え、就業時の即戦力となることを目指した上で、授業を通して実践力の育成に努めた ・2級課程に続いて1級課程でもルーブリックを開始し、実習にルーブリック評価を取り入れる意図を正しく理解させ、時間管理・整理整頓・自主的行動など、職業人に求められる人間力の向上に取り組んだ ・外国籍の入学学生増加にあわせ、在学中から日本人と相互理解を深める交流機会を設けた ・車体整備の場面でもコンサルト(コンピュータによる自動車の機能診断)を活用する場面が増えており、車体科授業にも取り入れることで全課程でコンサルト取り扱い教育に取り組んだ ・1級課程では、自動車の多機能化(ADAS:先進運転支援システム)の理解を深められるよう、動画を活用した教材を導入した ・2級課程、車体課程とも、整備士資格の合格を目指すことだけにとどまらず、教科書の熟読を通して理解の定着を図った ・車体課程では、電子制御装置整備の整備主任者の講習を実施した(新整備士制度のカリキュラムスタートまで継続する) ・カスタマイズ科においては、出展車両の製作スケジュール管理を教員が強力にサポートすることにより、出展までにナンバー取得を終えた		
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、就職後に必要とされるお客さま対応技術、電気自動車を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容		
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記		
実際の整備・点検を体験し、学校の実習との違いを肌で感じさせる。 企業からの技術情報を基に授業内容と評価基準を定めている。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
ステアリング・サスペンション	1. お客様の車両を取り扱う上での注意事項を理解させ、実際に気を使いながら取り扱うようにする。 2. 工具選択の重要性を教え、常に的確な工具選択が出来るように意識させる。 3. グループで作業をする際の危険性を意識させ、常に声かけが出来るよう意識させる。 4. 安全で確実な作業を心がけさせる。 5. 部品の整理・整頓の重要性を伝え意識させる。 6. アライメント測定をすることで二級勉強時に苦手とする分野の理解を促す。	日産自動車株式会社
エンジン電子制御1	1. 電子制御装置について、理解する 2. 吸気系統、センサ、アクチュエータの説明と作動を理解する。 3. 構成部品の点検方法を理解する。 4. 燃料系統、アクチュエータの説明と作動を理解する。 5. 制御系統、概要について理解する。 6. 各センサ類の点検を行う 7. 各センサ(エアフロ、POS、PHASE)の電源電圧測定の方法が正しく出来る。 8. 排出ガス浄化装置の役割、作動を理解する。 9. 圧縮圧力の点検手順どおり点検が出来る。 10. コンサルトを使用し、データモニタと自己診断、簡易オシロの表示が出来る。	日産自動車株式会社
AT	・ATの分解組立と構成部品の構造及び作動を理解する。 ・自己診断ができる。 ・FR車用AT、オルタネータの脱着作業ができる。 ・電子制御回路の点検ができる ・ストールテスト、ATフルードの油量及び状態の点検ができる	日産自動車株式会社

定期点検	・自家用乗用車の1年点検を規程時間内で行うことができる。 ・点検整備記録簿が作成できる。 ・顧客管理システムによる見積もり作成と中間報告ができる。	日産自動車株式会社
車検	1. 2年点検の実施の際、抜けや漏れがあると事故やクレームにつながることを理解する。 2. 保安基準不適合箇所を見つけ、適切な対処法がわかる 3. 日産3級お客様対応レベルを身につける 4. フロントブレーキパッド、クリーンフィルタの交換作業ができる 5. 検査機器の使用法を理解する。 6. 検査結果を基に保安基準に適合しているかを判断することができる	日産自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修計画に基づき、研修プログラムを企画し、連携企業による研修を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「電動パワートレイン基礎+技術講座」(連携企業等: 日産自動車株式会社)

期間:令和5年7月18日(火)～7月21日(金)

対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員

内容:電動パワートレインの整備に必要な知識を学ぶ

研修名「車体・シャシー音振講座」(連携企業等: 日産自動車株式会社)

期間:令和5年9月12日(火)～9月15日(金)

対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員

内容:車体・シャシーに係る

研修名「電動パワートレイン基礎講座」(連携企業等: 日産自動車株式会社)

期間:令和5年10月12日(木)～10月13日(金)

対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員

内容:電動パワートレインの整備に必要な知識を学ぶ

研修名「販売会社技術研修」(連携企業等: 京都日産自動車株式会社)

期間:令和6年1月15日(月)～29日(月)

対象:日産京都自動車大学校教員

内容:テールゲートリフターを業務で取り扱うため、法定の講習を受講し、安全作業ができるようになる

研修名「整備主任者技術研修会」(連携企業等: 京都府自動車整備振興会)

期間:令和5年9月

対象:整備事業所等の実務担当者

内容:自動車の特定整備、特定整備記録簿の記載に関してブラッシュアップを図る

研修名「タイヤ空気充てんの特別教育」(連携企業等: ミシュラン)

期間:令和5年10月24日(火)

対象:日産京都自動車大学校教員(新任教員のうち未受講者対象)

内容:授業で取り扱うため法定の講習を受講する

研修名「普通救命救急講習」(連携企業等: 久御山町消防署)

期間:令和5年11月25日(土)

対象:日産京都自動車大学校教員(過去3年間の受講実績なしを対象)

内容:心肺蘇生法、AEDを用いた応急手当を学び、授業中に事故等が発生した場合の初動対応に備える

研修名「パワーテールゲートリフター特別教育」(連携企業等: PCT)

期間:令和6年3月19日(土)

対象:テールゲートリフター取扱予定者

内容:テールゲートリフターを業務で取り扱うため、法定の講習を受講し、安全作業ができるようになる

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員教育技法研修1」(連携企業等: 日産自動車株式会社)

期間:令和5年8月18日(金)～8月19日(土)

対象:日産京都自動車大学校中教員

内容:教員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくする

研修名「 新任教員教育技法研修2 」(連携企業等:日産自動車株式会社) 期間:令和5年12月22日(金) 対象:整備専門学校の新任～中堅教員 内容:コーチングスキルを学び、学生指導に活かす
研修名「 夏季教員研修会 」(連携企業等:JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間:令和5年8月1日(火)～4日(金) 対象:整備専門学校の新任～中堅教員 内容:授業運営、コーチング、コミュニケーション技法を、全国の専門学校教員による集合教育によりレベルアップを図る
研修名「 専修学校教員研修 」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間:令和5年9月9日(土) 対象:京都府内の専修学校、各種学校の教員(新任～中堅) 内容:協会でテーマを定めて研修を実施し、教員力の向上を図る
研修名「 新任教員研修 」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間:令和5年11月11日(土)、25日(土) 対象:京都府内の専修学校、各種学校の新任教員 内容:実践心理、カウンセリング理論、職業教育の在り方等、教員の心構えを学ぶ(2年間合計6日の受講が必要)
研修名「 やさしい日本語講座 」(連携企業等:やさしい日本語有志の会) 期間:令和6年3月29日(金) 対象:日産京都自動車大学校全教員 内容:留学生が増加する中、正しく伝えるための適切な日本語の使い方を学ぶ
研修名「 アンガーマネジメント 」(連携企業等:MIBUKULINK) 期間:令和6年3月29日(金) 対象:日産京都自動車大学校全教員 内容:ハラスメントのない学校教育、職場づくりを学び、職場環境改善や学生指導に役立てる
研修名「 学級経営・学生対応 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和5年8月 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:学生への効果的な動機付け手法、教員個々の指導力、教員間連携の強化、効果的なクラス運営等を学ぶ
研修名「 メンタリング 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和5年8月9日(水)～10日(木) 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:留学生に特化した就職支援の在り方を学ぶ
研修名「 SWOT分析 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和5年7月25日(火)～26日(水) 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:、学校経営の概観を把握できる知識を持つことで、優れた「経営感覚」を身につけることを目指す
研修名「 リスクマネジメント 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和5年9月1日(金) 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:代表的な事例をもとに対応の手順や留意点を知り、問題解決に活かす
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「 初級見積士講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間:令和6年4月9日(火)～4月12日(金) 対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容:事故発生状況を把握し、損傷との整合性について修得する
研修名「 電動パワートレイン基礎+技術講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間:令和6年11月 対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容:電動パワートレインの整備に必要な知識を学ぶ
研修名「 車体・シャシー音振講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間:令和6年3月 対象:日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容:車体・シャシーに係る騒音振動について整備に必要な知識を学ぶ
研修名「 TIG溶接技能クリニック 」(連携企業等: 京都職業能力開発促進センター) 期間:令和6年4月8日(月)～9日(火) 対象:TIGステンレス鋼溶接の作業に従事する者、従事する予定の者 内容:TIGステンレス溶接を実践的に学ぶ

研修名「 グランドライブ試乗会 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和6年5月12日(日) 対象: 日産自動車大学校教員 内容: テストコースを利用して、車両乗り比べ、モード切替による変化、VDC体験などを通じて授業での学生説明等に活かす
研修名「 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習 」(連携企業等: 京都府労働基準協会) 期間: 令和6年7月 対象: 有機溶剤の取り扱いを行う事業所の実務担当者 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する
研修名「 新技術・車両診断 」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和6年8月 対象: 整備専門学校のベテラン教員 内容: 前年度以降に登場した新技術や車両診断の方法について実践的に学ぶ
研修名「 整備主任者技術研修会 」(連携企業等: 京都府自動車整備振興会) 期間: 令和6年9月 対象: 整備事業所等の実務担当者 内容: 自動車の特定整備、特定整備記録簿の記載に関してブラッシュアップを図る
研修名「 タイヤ空気充てんの特別教育 」(連携企業等: ミシュラン) 期間: 令和6年10月22日(火) 対象: 日産京都自動車大学校教員(新任教員のうち未受講者対象) 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する
研修名「 普通救命救急講習 」(連携企業等: 久御山町消防署) 期間: 令和6年11月9日(土) 対象: 日産京都自動車大学校教員(新任は採用年、その他の教員は3年ごとにアップデート受講) 内容: 心肺蘇生法、AEDを用いた応急手当を学び、授業中に事故等が発生した場合の初動対応に備える
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「 新任教員教育技法研修1 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和6年8月20日(火)～8月21日(水) 対象: 日産京都自動車大学校中堅教員 内容: 教員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくする
研修名「 新任教員教育技法研修2 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和6年12月 対象: 整備専門学校の新任～中堅教員 内容: コーチングスキルを学び、学生指導に活かす
研修名「 夏季教員研修会 」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和6年7月30日(火)～8月2日(金) 対象: 整備専門学校の新任～中堅教員 内容: 授業運営、コーチング、コミュニケーション技法を、全国の専門学校教員による集合教育によりレベルアップを図る
研修名「 専修学校教員研修 」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間: 令和6年9月 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の教員(新任～中堅) 内容: 協会テーマを定めて研修を実施し、教員力の向上を図る
研修名「 新任教員研修 」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間: 令和6年10月、11月 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の新任教員 内容: 実践心理、カウンセリング理論、職業教育の在り方等、教員の心構えを学ぶ(2年間合計6日の受講が必要)
研修名「 金融講座 」(連携企業等: 日本年金機構、日本クレジットカード協会) 期間: 令和6年12月 対象: 日産京都自動車大学校全教員 内容: 学生への説明、学生活動へのサポート等の観点から、教員向けに金融知識を深める講座を開催する
研修名「 学級経営・学生対応 」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間: 令和6年8月 対象: 専修学校、各種学校の教員 内容: 学生への効果的な動機付け手法、教員個々の指導力、教員間連携の強化、効果的なクラス運営等を学ぶ
研修名「 メンタリング 」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間: 令和6年8月 対象: 専修学校、各種学校の教員 内容: 留学生に特化した就職支援の在り方を学ぶ

研修名「 SWOT分析 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和6年8月 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:、学校経営の概観を把握できる知識を持つことで、優れた「経営感覚」を身につけることを目指す	
研修名「 リスクマネジメント 」(連携企業等:TCE職業教育・キャリア教育財団) 期間:令和6年8月 対象:専修学校、各種学校の教員 内容:代表的な事例をもとに対応の手順や留意点を知り、問題解決に活かす	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 学校評価の目的は、学校運営・教育活動の改善であり、学校関係者評価は、自己評価結果の客観性・透明性を確保することを目指すとしている。本校の専攻分野に通じた関係者からの提言、助言は、学内に周知徹底すると同時に、内容を十分分析し、対策案、取り組みの時期の検討につなげていく。 対策結果を、次年度の評価で学校関係者の評価をいただくサイクルを継続して回していく。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか 【1-2】学校における職業教育の特色はなにか 【1-3】社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 【1-4】学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか。
(2)学校運営	【2-1】目的等に沿った運営方針が策定されているか 【2-2】運営方針に沿った事業計画が策定されているか 【2-3】運営組織や意思決定機能は、規則等により明確化されているか、また、有効に機能しているか。 【2-4】人事・給与に関する制度は整備されているか 【2-5】教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されているか 【2-6】業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 【2-7】教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 【2-8】情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3)教育活動	【3-1】(目標の設定等)教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 【3-2】(目標の設定等)教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 【3-3】(教育方法・評価等)学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 【3-4】(教育方法、評価等) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか。 【3-5】(教育方法、評価等)関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われている 【3-6】(教育方法、評価等)関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習棟)が体系的に位置づけられている。 【3-7】(授業方法、評価等)授業評価の実施・評価体制はあるか 【3-8】(授業方法、評価等) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 【3-9】(授業方法、評価等) 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか 【3-10】(資格試験) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中の体系的な位置づけはあるか 【3-11】(教職員) 人材育成目標の達成に向け授業を行なうことができる要件を備えた教員を確保しているか 【3-12】(教職員)関連分野における業界等との連携において、優れた教員(本務・兼務を含む)を確保しているか 【3-13】(教職員)関連分野における先端的な知識技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われている。 【3-14】(教職員)職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果	【4-1】就職率の向上が図られているか 【4-2】資格取得率の向上が図られているか 【4-3】退学率の低減が図られているか 【4-4】卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 【4-5】卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	【5-1】進路・就職に関する支援体制は整備されているか 【5-2】学生相談に関する体制は整備されているか 【5-3】学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 【5-4】学生の健康管理を担う組織体制はあるか 【5-5】課外活動に対する支援体制は整備されているか 【5-6】学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか 【5-7】保護者と適切に連携しているか 【5-8】卒業生への支援体制はあるか 【5-9】社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 【5-10】高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか 【5-11】関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか
(6) 教育環境	【6-1】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 【6-2】学外実習・インターンシップ、海外研修等にいついて十分な教育体制を整備しているか 【6-3】防災に関する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	【7-1】高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか 【7-2】学生募集活動は、適正に行われているか 【7-3】学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 【7-4】入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 【7-5】学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	【8-1】中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 【8-2】予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 【8-3】財務について会計監査が適正におこなわれているか 【8-4】財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	【9-1】法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 【9-2】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 【9-3】自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 【9-4】自己評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	【10-1】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 【10-2】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 【10-3】地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【NIM(ニッサンインテリジェントモビリティ)】

- ・機能を体験する機会は継続して設け、クルマへの理解を深めるだけでなく日産資格学習にも活かす

【整備要領書の理解】

- ・整備要領書を活用できるよう、実習授業に授業に取り入れる

【日産整備士資格】

- ・日産テクニカルスタッフ3級、日産テクニカルアドバイザー3級は、引き続き全員取得するまで学習する
- ・日産テクニカルスタッフ2級は、就職先で必要となる全学生が取得できるよう引き続き学習する
- ・日産車体整備士3級、日産塗装士3級についても、就職先で必要となる全学生が取得できるよう引き続き学習する

【ICT推進】

- ・Chromebookの活用拡大を図る(1年生、2年生)
- ・上級課程に必要となるアプリの動作を確認しながら、上級課程でもChromebookの活用を開始する(一級課程、車体課程)

【特定整備】

- ・一級課程の授業カリキュラムに取り入れる

【電制整備主任者】

- ・資格を取得して卒業できるよう、授業カリキュラムに資格講座を追加する(車体課程3年生)

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢川賢治	(社)京都自動車整備振興会 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	団体代表
三浦直也	京都日産自動車(株) 取締役 執行役員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業代表
山形政典	日産大阪販売(株) 執行役員 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業代表
中森耕平	京都府立田辺高校 自動車科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	高校代表
西村 剛	正和自動車販売(株) 会長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生代表
坂田博則	京都府自動車車体整備協同組合 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	団体代表
藤本正昭	日産大阪販売(株) BP事業部部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業代表
安達耕太	日産大阪販売(株) BP羽曳野工場	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

☒ ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()URL:<https://wp.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/wp-content/uploads/2024/06/6cbd365d1b7e6208302d782e4bbce706.pdf>

令和6年6月21日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広く学校関係者(学生、保護者、関係する業界、企業 等)に対して、教育活動等の情報提供により、公的教育機関としての説明責任を果たすと同時に、広く、当校の特色をアピールする機会とする。

また、教育活動の課題も示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。

提供する情報は、「情報提供等への取り組みに対するガイドライン」(文科省)に準じて行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標など
(2)各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3)教職員	教職員数、組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取組み状況など
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 学校ホームページ

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html>

令和6年6月21日

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 令和6年度																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			自動車工学基礎	1. 自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。 2. 自動車に係る基本的な原理、原則を理解する。 3. 国家2級試験 工学分野の計算問題を理解する。	1通	64		○			○			○	
2	○			エンジン構造基礎	1. ガソリン・エンジンの構造、作動を理解する。 2. 電子制御装置の構造、作動を理解する。 3. ジーゼル・エンジンの構造、作動を理解する。	1通	86		○			○			○	
3	○			シャシ構造基礎	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。 2. アクスル及びサスペンションの構造、作動を理解する。 3. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの要素や役割を理解する。 5. ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造、作動を理解する。 7. タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1通	84		○			○			○	
4	○			電装品構造基礎	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. 暖冷房装置の構造、作動を理解する。 5. 灯火装置の構造、作動を理解する。 6. 計器装置の構造、作動を理解する。 7. 自動車に使用されている半導体の役割、作動を説明できる。 8. 充電装置の構造、作動を理解する。 9. 点火装置の構造、作動を理解する。 10. 予熱装置の構造、作動を理解する。 11. 多重通信の概要を理解する。	1通	71		○			○			○	
5	○			整備機器取扱	1. 自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1前	25		○			○			○	
6	○			TS育成	1. お客様対応の基本を学ぶ	1後	6		○							
7	○			エンジン分解組立	1. ガソリンエンジンの構造、エンジン主要部品の名称・役割がわかる 2. エンジンオイル・オイルフィルタの交換ができる 3. 工具・装置の正しい使用法と安全配慮ができる 4. ファンベルトの脱着ができる 5. 計測機器の正しい使用と正確な測定が出来る。 6. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。	1前	52				○	○			○	○
8	○			基本電装	1. オームの法則を使い、回路の計算ができる 2. オームの法則を使い、抵抗値、電流値、電圧値を推理でき、サーキット・テストの使用し、回路の測定が出来る。 3. 灯火装置の、バルブの脱着ができる。 4. 半導体の特徴を実験や測定することで理解を深める。 5. オシロスコープの取り扱い、注意点を学び、直流と交流の違いを理解できる。	1前	52				○	○			○	○
9	○			基礎整備・工作	1. 切削作業を安全に行える。 2. 指定する工作物を、正確に作成できる。 3. 板金塗装の作業内容を理解する。 4. 塗料の種類(成分)を理解する。 5. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができるようにさせる。	1前	52				○	○			○	○

10	○		ステアリング・サスペンション	1. ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの脱着を通じて、ステアリング装置全体の構造を理解する。 2. ステアリング・ギヤ機構の種類及び調整方法を理解する。 3. 独立懸架式と車軸懸架式の構造を理解する。 4. サスペンション(前・後)の脱着作業を理解する。 5. アライメントの測定が正しい手順でできる。	1前	52					○	○			○	○
11	○		動力伝達1	1. 分解・組付作業を通じて、構造やその作動の理解に繋げる目的で行う。 2. ユニット教材や工具等の取り扱いやその注意点を学ぶために行う。	1前	52					○	○			○	○
12	○		車体電装	1. 配線図集の使い方を学び、電気装置の基本的な点検方法と考え方を習得する 2. 電装ボードを使用し、電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、故障診断の考え方を学ぶ 4. 車両を用いて灯火装置の点検が出来るようにする。 5. 車両を用いて簡単な故障診断が出来るようにする	1前	52					○	○			○	○
13	○		ブレーキ1	1. ブレーキ装置の構造と作動の理解 2. ブレーキ装置の整備作業習熟	1後	52					○	○			○	○
14	○		動力伝達2	1. クラッチの分解組立及び調整ができる。 2. クラッチの構造及び作動が理解できる。 3. 車両からトランスミッション及びクラッチの脱着ができる。 4. クラッチの遊びや不具合現象が理解できる。 5. A/T、トルク・コンバータの概要を理解する。 6. トランスファの構造作動を理解する。	1後	52					○	○			○	○
15	○		電気装置	1. スタータ・モータの概要、構造(名称、役割)を理解し、各部の点検方法、使用テストを理解する。 2. 点火装置の構造と作動を理解する 3. 充電装置の構造と作動を理解する 4. 指定された条件で、ワイパ回路の点検ができる	1後	52					○	○			○	○
16	○		定期点検	1. 12ヶ月点検項目作業及び日常点検項目を指定された時間で点検する。 2. 定期点検記録簿の記入ができる。	1後	52					○	○			○	○
17	○		エンジン分解始動	1. エンジンの分解始動をするなかで、安全作業を知る。 2. バルブクリアランスの点検調整が出来る。 3. オイルクリアランスの点検が出来る。 4. 冷却装置、潤滑装置の概要と点検が出来る。 5. ファンベルトの交換・調整が出来る。 6. バルブタイミングを理解する。 7. 電子制御装置の概要を理解する 8. センサ、アクチュエータの名称と役割を理解する 9. 圧縮圧力の点検が出来る。 10. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。 11. 各センサの電源電圧の測定	1後	52					○	○			○	○
18	○		ブレーキ2	1. 中・大型車のブレーキ点検方法、整備方法を学習する。 2. ブレーキ・キャリパ、ホイール・シリンダの点検整備方法に習熟する。 3. 固定型キャリパのパッド脱着が出来る。 4. 制動倍力装置の構造および作動を理解する。 5. パーキング・ブレーキの隙間および引き代調整が出来る。	1後	52					○	○			○	○
19	○		自動車工学応用	1. 国家二級試験 工学分野の問題が解け、理論説明が出来る。 2. 国家二級試験 工学分野の問題を理解する。 3. 国家二級試験 電装分野の問題を理解する。 4. 国家二級試験 バルブタイミングの問題を理解する。 5. 全教科書の内容を登録試験問題を中心に理解する。	2通	109			○			○			○	
20	○		エンジン構造応用	1. LPG・CNG等の燃料装置を理解する 2. エンジンの電子制御を理解する。 3. 4ストローク1サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。 4. 冷却装置の構造、種類、作動を理解する。 5. 潤滑装置の構造、作動を理解する。 6. 吸排気装置の構造、種類、作動を理解する。 7. ガソリン分野では、過給器の構造、種類、作動に関して及び、可変吸気装置、EGR装置について理解する。 8. ジーゼル分野では、可変容量式ターボチャージャ、排気ガス後処理装置に関して、理解する。 9. ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、種類、作動を理解する。 10. エンジンの整備と故障探求の方法を理解する。	2通	58			○			○			○	

21	○		シャシ構造応用	1. 走行抵抗の種類などを理解する。 2. LSDの構造、作動を理解する。 3. パワーステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの役割を理解する。 5. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造・機能を理解する。 7. 故障診断の考え方を理解する。	2通	64		○			○					○
22	○		電装品構造応用	1. バッテリーの機能を理解する。 2. 空気調和装置を理解する。 3. 始動装置を理解する。 4. 充電装置を理解する。 5. 点火装置について理解する。 6. 予熱装置について理解する。 7. 計器について理解する。 8. 電気装置について理解する。 9. 安全装置について理解する。	2通	48		○			○					○
23	○		自動車法規	1. 道路運送車両法の目的を理解する。 2. 道路運送車両法の検査等を理解する。 3. 自動車の整備事業について理解する。 4. 自動車の保安基準に定められている数値を覚える。	2後	39		○			○					○
24	○		整備知識	1. 日産資格制度の内容をもとにTS3級の知識を身に付ける	2後	35		○			○		○			○
25	○		大型車整備1	1. エア製造系の構造と作動を理解(復習)。 2. エア式・複合式ブレーキ装置の構造・作動を理解する。 3. ジーゼルエンジンの分解組立を通じて、安全かつ正しい作業を行う。 4. ジーゼルエンジンのライナー突き出し量計測、バルブクリアランス調整を行う。	2前	52					○	○			○	○
26	○		AT	1. オートマチック・トランスミッションの構造、作動を理解する。 2. トルクコンバータのトルク増大作用及び性能曲線の見方を理解する。 3. プラネタリ・ギヤ・ユニットの増減速を理解する。 4. オートマチック・トランスミッション内部における動力の伝達経路を理解する。 5. 電子制御式オートマチック・トランスミッションの各ソレノイドの役割、コントロールバルブ及び油路を理解する。 6. CVTの構造を理解できる。	2前	52					○	○			○	○
27	○		ステアリング・サスペンション応用	1. パワーステアリングの構造・作動を理解する。 2. パワーステアリングの点検、故障診断ができる。 4. P/Sフルードのエア抜きが正しくできる。 5. ステアリング関連部品の脱着ができる。 6. フロントサスペンション、ドライブシャフトの脱着ができる。 7. エアサスペンションの構造、作動を理解する。 8. エア製造系の構造と作動を理解する。	2前	52					○	○			○	○
28	○		ユニット脱着	1. FR車用のトランスミッション(AT車)の脱着方法を整備要領書通りに行い、習得する。 2. トルクコンバータの脱着、AT車の安全装置を理解できる。 3. ATフルードの油量及び状態点検方法を習得する。また、その説明ができる。	2前	52					○	○			○	○
29	○		エンジン電子制御1	1. 電子制御装置の概要を理解する 2. センサ、アクチュエータの名称と役割を理解する 3. 圧縮圧力の点検ができる。 4. コンサルトのデータモニタと自己診断を表示できる。 5. 各センサの入出力値を測定できる。	2前	52					○	○			○	○
30	○		電装品整備	1. TS3級の技術能力要件の電圧点検、エアコン関係の作業ができる。 2. 電動格納ミラーの電圧点検が行う事ができる。 3. エアコンについては、整備要領書にしたがって性能点検ができる。	2前	52					○	○			○	○
31	○		大型車整備2	1. マニュアルトランスミッションの脱着を通じて、安全かつ正しい作業を行う。 2. インタ・アクスル・ディファレンシャル、エキゾーストブレーキについて理解する。 3. 貨物車を正しい手順で分解、組立、故障探究ができる。 4. 大型車の動力伝達装置に使用されている各機構を理解できる。	2後	52					○	○			○	○
32	○		エンジン電子制御2	1. 各種センサーの電源、信号電圧測定、点検部位に対し、配線図から必要な回路を抜き出して点検箇所にテストが当てられる。 2. コンサルトの接続、立ち上げ、自己診断、データモニタ表示を行なう。 4. 実際に一般道を走行している車両の整備全般ならびに法定点検を実施できる。	2後	52					○	○			○	○

33	○		エンジン脱着	1. 車両からパワートレインASSY脱着～エンジン始動させる。	2後	52					○	○			○	○
34	○		車検	1. 2年点検を実施できる 2. 保安基準について理解する 3. 指定整備記録簿を記入することができる 4. お客様に整備結果説明ができる	2後	52					○	○			○	○
35	○		総合整備	1. 日産3級技能要件の確認 2. コンサルトⅢの取扱いが出来る。 3. 各種点検(新1、新6、安心6か月)が出来る。 4. 各種作業(ブレーキ、エンジン周り、バンク修理等)が出来る。 5. 車両取扱い時の注意事項を熟知している。 6. 就職後の車両取り扱い・作業全般を身に付ける	2後	52					○	○			○	○
36	○		EV	1. EV基礎教育（低圧電気取扱い者講習を含む）を修了する 2. 先進安全装備のキャリブレーションの知識が習得できる	2後	52					○	○			○	○
合計				36 科目	1937単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ卒業を認める。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	25週
(留意事項) 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			